

令和6年度 福生市立学校 学校経営方針

学校名 福生市立福生第三中学校

校長名 増木 一 仁 公印

教育目標

- ・ よく聞き、よく見、自分の考えをもつ生徒を育成する。
- ・ ものごとをやり抜く強い意志をもつ生徒を育成する。
- ・ 責任を果たし、みんなのために働く生徒を育成する。
- ・ 美しいものをもつめ、豊かな心をもつ生徒を育成する。

1 目指す特色ある学校像

学校教育目標（目指す生徒像）の具現化に向け、中学校が義務教育9年間における最終段階という認識のもとに、「自分の将来に夢や希望をもち、自立して卒業できる生徒の育成」を基本姿勢とする。そのために自尊感情や自己肯定感の育成とともにキャリア教育の充実を図り、確かな学力と自らを律し行動できる生徒の育成を目指す。教育目標（めざす生徒像）の具現化を、「自立」「共生」の2つのキーワードでくくり、教育活動を展開する。また、校訓「礼節」を浸透、実行していくことで生徒の基本的な生活習慣の確立、規範意識の確立、ボランティア精神の涵養、いじめの未然防止など、健全育成を図っていく。

特に次の3点について、中・長期的な展望をもち改善を図っていく。

- ・ 自尊感情を育成し、自分の将来に夢や希望をもち、目標に向かって努力する心情を涵養する。
- ・ 全ての教育活動において自ら主体的に取り組む態度・姿勢を重視し、その育成を図る。
- ・ 校訓「礼節」を凡事徹底として取り組むことで、望ましい生活習慣や社会性を確立する。

2 学校経営の目標

(1) 中期的目標

- ① カリキュラム・マネジメントを確立し、教育活動の質を向上させることで、個々の生徒の個性の伸長を図り、生徒が自己の将来に夢と希望、そして展望をもって義務教育を修了できるようにする。
- ② 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組み、学びに向かう力を育成する。
- ③ 校訓「礼節」に取り組み、基本的な生活習慣の確立、ボランティア精神の涵養など健全育成を図る。
- ④ 「安心安全で、認められ、楽しい体験ができる学校」を目指し、いじめ、不登校生徒の減少を図る。
- ⑤ コミュニティ・スクールとして、さらに地域の中の学校、地域とともに歩む学校を目指す。

(2) 本年度の目標

① 学力向上

- ア 福生市学力調査の結果を分析し、各学年、個人の成果と課題を全教職員で共有する。生徒の実態に応じた授業改善推進プランを作成、実施し、基礎基本の定着とこれらを活用する力を育成する。
- イ 各教科等の目標と育成すべき資質・能力をバランスよく育成する。また、生徒の発達の段階に応じた支援の充実を目指すとともに、家庭とも連携し、学習習慣が確立するよう工夫する。
- ウ 一人一台端末を活用した新しい学びに向け、組織的な授業改善を行う。また、学習用iPadを積極的に活用することで、生徒が主体的に問題解決できる力や情報活用能力を育成する。

② 心の育成

- ア 「道徳科」を心の教育の要とし、学校の教育活動全体を通じて道徳教育に取り組む。
- イ 全教育活動を通して、集団としての達成感や成就感を体感させ自尊感情や自己肯定感を高める。
- ウ 悩みを抱える生徒や不登校生徒の対応として、校内支援委員会を中心に全校体制で取り組む。校内研修を充実させ、教職員の実践的指導力の向上を図るとともに教育センターとの連携を深める。
- エ CSの活動を柱に、町会やPTAと連携した挨拶運動や総合防災訓練、清掃活動など、地域貢献をすることを通して生徒の自己有用感を育むとともに、生徒会活動を通じてリーダーを育成する。

③ 体力向上（健康推進）

- ア 体育科を中心にスポーツテストの結果分析、改善策を明確にし、全校をあげて体力の向上を図り各学期1回の体力向上チャレンジタイムを実施し、生徒自らが体力の向上を図るきっかけとする。
- イ 保健の授業や学級活動の中で、感染症の防止のための正しい知識を身に付け、健康について自他の課題を積極的に発見し、よりよい解決に向けて思考し判断する力を養う。

3 目標達成に向けての課題

① 学力向上

- ア 組織として指導方法工夫改善、授業力の向上、指導と評価の一体化に取り組むことが重要である。
- イ 学習意欲を喚起するため、iPad 等 ICT を活用した教材・教具を工夫した授業を行うとともに、ミライシード等の学習を家庭においても取り組ませることで、家庭学習の習慣化を図る必要がある。

② 心の育成

- ア 自尊感情を高めるためには、生徒が他者との関わりの中で、認められ、感謝される体験が必要である。また、教師が生徒を観察し、励まし、自信をもたせる指導を積極的に行う必要がある。
- イ 校訓「礼節」を全教職員、保護者・地域が理解し、社会性の育成に向けた取り組みが大切である。
- ウ 悩みを抱える生徒、不登校の生徒などについて、教育センター及び医療・福祉面の連携を強化するとともに、カウンセリングの手法を取り入れた教職員の実践的対応力を図ることが重要である。

③ 体力向上

- ア 望ましい生活習慣を促す生活指導の一つとして、日常的な食育を推進するとともに歯磨きの習慣化にも目を向け取り組む必要がある。
- イ 全教員が本校生徒の体力についての実態を把握し、体力は気力の源になるという認識の下に、体力向上に向け、全教員で計画的・継続的・組織的に推進していくことが重要である。

4 経営の具体策

① 学力向上

- ア 福生市教育委員会研究奨励校として「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業や ICT を活用した授業研究に取り組む。また、思考力育成のために学校図書館を活用し、読書活動の推進を図る。
- イ 「家庭学習の習慣化」を本校の課題として捉え、家庭と連携して学習習慣の確立に取り組む。
- ウ 学力調査結果の分析を学習・進路部の主導の下実施し、全教職員で授業改善及び学力向上を図る。
- エ 学習用 iPad を活用し生徒の可能性を引き出し「個別最適な学びと協働的な学びの実現」に取り組む。
- オ 「総合的な学習の時間」を柱に系統的なキャリア教育に取り組み、教科横断的な視点で学習内容を編成し、自己実現のために、自己理解や人間関係形成能力、確かな学力を身に付ける意義を理解させる

② 心の育成

- ア 美校会、挨拶運動、落ち葉掃き清掃など、地域に貢献する活動やボランティア活動などを日常に多く取り入れることで、よりよく生きる基盤となる道徳性や社会性、自己有用感及び自尊感情を養う。
- イ 「地域に開かれた教育課程」を推進し、本校の教育活動の発信及び地域貢献から、地域と共に歩む CS校としてのさらなる発展と充実を図る。
- ウ 発達等の遅れのある生徒、学校や学級になじむことが難しい生徒、心の悩みなどについて、市教育相談室の心理士や S S W を招き、具体的事例に基づいた教員研修を年間 1 回以上実施する。
- エ CS委員会を核とした活動（「学校環境美化」「地域人材活用（地域の方に学ぶ講座）」「地域防災・安全指導」「健全育成（挨拶運動等）」）など、さらなる充実に向けて企画・実践していく。
- オ 年度当初の 1 年生においては、小学校生活との円滑な接続を図るために「スプリングウィーク」と銘打ち、学級開きやオリエンテーション等の交流活動を充実させる。

③ 体力向上

- ア 「体力向上チャレンジタイム」に全校で取り組む。また、食育の充実を図り、保健指導に活かす。
- イ 体力テストの分析により課題を明確にした上で、体力向上や保健体育の授業に活かす。

5 年度末のチェックポイント

① 学力向上

- ・ 検証データとして、生徒・保護者・教員アンケート設問における肯定的評価の割合、福生市学力調査結果（全教科 CD 層 50% 以内を数値目標とする）都立高校入試得点の都平均との比較

② 心の育成

- ・ 自尊感情、自己肯定感、規範意識等、（生徒アンケート、国・都の学力調査における意識調査の結果等で検証）（学期に 1 回の自尊感情測定尺度の実施、検討）
- ・ 不登校生徒出現率・いじめ解消率

③ 体力向上

- ・ 体力テスト結果、体力向上チャレンジタイムの参加数、生徒および保護者アンケートの結果の検証